

第1学年国語科学習指導案

単元名 「故事成語と自分の生活を結び付けて考えよう」

教材名 「今に生きる言葉」(光村図書「国語1」)

1 単元について

小学校学習指導要領解説国語編、第3学年及び第4学年の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕では、「ア(イ)長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと」とあり、生徒は小学校の学習において、日常生活でよく用いられる故事成語などについて、その意味や用法についてある程度理解していると考えられる。

一方、佐賀県の中学1年生の実態として、平成23年4月の佐賀県小・中学校学習状況調査において、「言語事項」の「日常場面で、ことわざを適切に使うこと」を問う設問では、正答率が期待正答率「おおむね達成」には達しているものの他の設問に比べて正答率が低くなっており、課題が見られる。

本単元では、故事成語の中から「矛盾」を教材として、故事成語の成り立ちや現代の意味・用法などを学び、その上で自分の選んだ故事成語について日常生活の出来事と結び付けて考え、起承転結の構成に沿った文章や4コマ漫画をかいて読み合う言語活動を位置付けている。そして、この言語活動を通して今に生きるいろいろな故事成語を知ることがねらいとしている。教材は、日常会話や文章の中でよく用いられる故事成語であるので、それらのねらいに適した教材と言える。

指導に当たっては、「矛盾」の基になる故事と自分の生活を結び付けて、起承転結の構成に沿った文章や4コマ漫画に表して理解を深める学習活動が、その他の故事成語とそれに合う出来事についてかくことのモデル学習となるように配慮したい。また、様々な故事成語を提示することで、言語への生徒の関心を高めたい。そして、起承転結の構成に沿った文章や4コマ漫画をかいて読み合うことで故事成語への理解を深めたいと考える。

2 単元の目標

- (1) 故事成語の基になった漢文に表現された内容に関心をもち、故事成語の意味に合う日常生活の出来事と結び付けて考えながら交流し、いろいろな故事成語を知ろうとする。
- (2) 古典には様々な種類の作品があることを理解することができる。
- (3) 故事成語の辞書的な意味と故事との関係に注意し、語感を磨くことができる。

3 本単元における言語活動

故事成語と日常生活の出来事とを結び付けて考え、起承転結の構成に沿った文章や4コマ漫画に表し、故事成語との関連を考えながら読み合う。

4 単元の評価規準 () 内は該当する指導事項等の記号

国語への関心・意欲・態度	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
① 故事成語の基になった漢文に表現された内容に関心を持ち、故事成語の意味に合う日常生活の出来事と結び付けて考えようとしている。	① 故事成語の基になった漢文を知り、古典には様々な種類の作品があることを理解している。 ((1)ア(イ)) ② 故事成語の辞書的な意味と故事との関係に注意し、語感を磨いている。((1)イ(イ))

5 指導と評価の計画(全5時間)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	<p>1 故事成語について確かめる。</p> <p>2 「矛盾」の基になった漢文を音読し、読み慣れる。</p> <p>3 「矛盾」の基になった漢文と現代語訳を交互に読み、大体の意味を捉える。</p> <p>4 学習課題「故事成語に合った日常生活の出来事を起承転結に沿った文章や4コマ漫画にして読み合い、いろいろな故事成語を知ろう」を設定し、学習の見通しをもつ。</p>	<p>○ 小学校で学んだ故事成語や、身近な故事成語などを取り上げて、基になった漢文の内容を紹介して興味をもたせる。</p> <p>○ 指導者の音読を聞いて、表記と読み方を照らし合わせるようにする。</p> <p>○ 繰り返し音読することによって、漢文独特のリズムを味わわせる。</p> <p>○ 学習計画表の使い方について説明する。</p> <p>○ 事前に、ワークシート④を配布し、故事成語についての並行読書を促す。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[言語についての知識・理解・技能] ① ワークシート①, 学習計画表</p> </div>
二	2	<p>5 教科書の「矛盾」の4コマ漫画にセリフを入れる。</p> <p>6 「矛盾」の意味を一文で書き、国語辞典の「矛盾」の意味と比較して、内容の確認をする。</p>	<p>○ 現代語訳を参考にさせながら、自分の言葉でワークシート②にセリフを書き入れさせる。</p> <p>○ ワークシートに書いた「矛盾」の意味をグループで確認し合うことで、内容の理解を確実にさせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[言語についての知識・理解・技能] ② ワークシート②</p> </div>

3	<p>7 自分の生活を振り返り、「矛盾」の意味に合う出来事について起承転結の構成に沿った文章や4コマ漫画をかく。</p> <p>8 グループで作品を読み合い、交流する。</p>	<p>○起承転結の4場面に分けて文章や4コマ漫画をかかせる。</p> <p>○絵をかくことが苦手な生徒にはマルや棒線を使った略画(簡単な絵)でもよいことを伝える。</p> <p>○グループで作品を読み合い、一言感想を伝えさせる。</p>	<p>[国語への関心・意欲・態度] ① 観察, ワークシート③</p>
4	<p>9 資料集や国語辞典などを用いて, いろいろな故事成語について調べる。</p> <p>10 故事成語を1つ選び, 起承転結の構成に沿った文章や4コマ漫画をかく。</p>	<p>○資料集や国語辞典の故事成語について, 故事と意味を読ませる。</p> <p>○故事成語に当てはまる体験がないか考えさせる。</p> <p>○思い当たる体験がない場合は, 創作でもよいことを知らせる。</p>	<p>[言語についての知識・理解・技能] ① 観察, ワークシート④</p> <p>[国語への関心・意欲・態度] ① 観察, ワークシート⑤</p>
三	<p>5</p> <p>11 自分の作品を紹介したり, 友達の作品を読んだりして, 様々な故事成語があることを知る。</p> <p>12 単元の学習を振り返り, 身に付けた力やその力を活用できそうな場面について考える。</p>	<p>○グループの中で読み合わせて, 感想を交流させる。</p> <p>○グループの中で, 他のグループに紹介したい作品を選ばせ, 全体の場で発表させる。</p> <p>○単元の学習について指導者の評価を伝え, 生徒が新しい課題や今後の学習の展望がもてるようにする。</p>	<p>[言語についての知識・理解・技能] ② ワークシート⑤, 評価表, 学習計画表</p>

6-1 1 / 5時の指導計画

(1) 目標

故事成語の基になった漢文を知り、古典には様々な種類の作品があることを理解することができる。

(2) 展開 ※ 表中のゴシック体で書かれた学習活動は、本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導入	<p>1 知っている古典作品を思い浮かべる。</p> <p>2 「故事成語」の言葉の意味を確かめる。</p> <p>3 故事成語の基になった故事を知り、漢文に興味をもつ。</p> <p>4 本時の目標を知る。</p>		<p>○小学校で学習した「枕草子」「平家物語」「論語」などの古典作品を思い出させる。</p> <p>○「故事成語」の言葉の意味を、教科書本文に線を引かせて確かめさせる。</p> <p>○小学校で学習した故事成語の基になった文章で、身近なものをあらすじと漢文で紹介する。</p>	
<p>古典には様々な種類の作品があることを確かめよう</p>				
展開	<p>5 「矛盾」の基になった漢文を、書き下し文を見て音読し、読み慣れる。</p> <p>[手順]</p> <p>1) 指導者の音読を聞いて、表記と読み方を照らし合わせる。</p> <p>2) 指導者の後について一斉に読む。</p>		<p>◆電子黒板に書き下し文を投影し、読むところをたどりながら、音読して聞かせたり、音読させたりする。</p> <p>○「矛盾」の故事について大まかに説明し、表記の違いに気を付けるよう注意を促す。</p> <p>○繰り返し音読することによって、漢文独特のリズムを味わわせ、古文とは違うリズムであることを感じ取らせる。</p>	<p>◇音読の練習が滞っている生徒には、歴史的仮名遣いで書かれた部分を取り上げて反復練習をさせるなどして、歴史的仮名遣いに対する抵抗を減らし、練習にスムーズに取り組ませるようにする。</p>

展 開	3) 原文を内容が分かりやすいように区切ってグループで分担して読む。		○原文の区切り方は、起承転結の構成や登場人物の会話などを手掛かりにするように指示する。	
	4) 2～3グループの音読を聞き合う。		○他のグループによる音読を聞いて、起承転結の構成や、登場人物の会話のやりとりへの理解を深めさせる。	
	6 「矛盾」の基になった漢文の書き下し文と現代語訳を交互に読み、内容を確認める。		○漢文の大体の意味が理解できるように、現代語訳と交互に読ませる。	
	7 学習課題「故事成語に合った日常生活の出来事を起承転結に沿った文章や4コマ漫画にして読み合い、いろいろな故事成語を知ろう」を設定する。	学習計画表 ワークシート④	○学習計画表の使い方を説明する。 ○事前に、ワークシート④を配布して、今に生きる故事成語が、「矛盾」の他にも多くあり、それぞれに基になった漢文があることを知らせ、生徒の興味を喚起し、並行読書を促す。	
	8 学習計画を知り、見通しをもつ。			
	9 ワークシート①に取り組むことで本時の学習内容を振り返る。	ワークシート①	○ワークシート①に個人で取り寄せた後、全員で音読させながら答え合わせをさせる。作品名等は、発表を促し、生徒に答えを言わせる。生徒から解答が出ないものについては、指導者が答えを板書して答えを知らせる。 ○古文と漢文の区別が付いたら、本時の目標が達成できたことになることを伝える。	<div data-bbox="1114 1435 1461 1765" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【言①】 故事成語の基になった漢文を知り、古典には様々な種類の作品があることを理解している。</p> <p>【ワークシート①】【学習計画表】</p> </div> <div data-bbox="1114 1783 1461 2018" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>数種類の古典の文章を読んで、古文と漢文の区別をしている状況を「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。</p> </div>

展 開				古文と漢文の区別のつかない生徒には、「すなはちいかん」や「～に～あり」などの漢文独特の表現を指摘して、漢文だと気付かせるように促す。
ま と め	<p>10 学習計画表の「自己評価」の欄に本時の自己評価に合った顔マークを書き、「学んだこと(学習のまとめや感想)」を書いて本時の学習を振り返る。</p> <p>11 次時の「目標」と「学習活動」を確かめ、見通しをもつ。</p>	学習計画表	<p>○「学んだこと」の欄に、「矛盾」の基になった漢文と「竹取物語」の古文との違いや共通点など気付いたことを書くように促す。</p> <p>○次時は、国語辞典や資料集などの学習用具の準備をすることを伝える。</p>	

6-2 2/5時の指導計画

(1) 目標

「矛盾」の基になった故事の内容を知り、故事成語である「矛盾」の意味を理解することができる。

(2) 展開 ※ 表中のゴシック体で書かれた学習活動は、本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 「矛盾」の書き下し文と現代語訳を音読して、前時の学習を振り返る。	学習計画表	◆書き下し文を電子黒板で投影し、読む箇所の色を変えながら斉読のタイミングをそろえる。	
	2 本時の目標を確かめる。			
「矛盾」の基になった故事の内容を知り、「矛盾」の意味について考えよう				
展 開	3 「矛盾」の4コマ漫画にセリフを入れる。 4 記入したセリフについて、グループで交流する。 5 「矛盾」の意味を自分なりに考えて一文で書き、国語辞典に書かれた意味と比較して理解を深める。 〔手順〕 1) 個人で書く。 2) グループで読み合う。 3) グループで最も適切だと思うものを選び、黒板に書いて紹介する。	ワークシート②	○現代語訳や書き下し文を参考にして、4コマ漫画にセリフを書き込ませる。 ○それぞれが書いたセリフを読み合わせ、質問をし合うなどさせて内容の理解を深めさせる。 ○国語辞典に書かれている意味を先に調べさせるのではなく、「矛盾」の故事から、実感的に言葉の意味を考えさせる。 ○「矛盾」の意味として、最も適切だと思うものを考えさせる。	◇4コマ漫画に、自分で考えたセリフを書いていない生徒には、現代語訳から抜き出して書くよう促す。

<p>展 開</p>	<p>4) 国語辞典で意味を調べ、グループから出した「矛盾」の意味と、国語辞典で調べた意味とを比較する。</p> <p>5) 現代での用例を出し合い、全体で「矛盾」の意味を確認する。</p> <p>《用例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話が矛盾している。 ・言っていることとしていることが矛盾している。 ・森林を大切にしようと言いながら、割りばしを使用するのは矛盾しないか。 ・麦の成長を促すために麦の芽を踏むという行為は、一見、矛盾している。 ・「二度あることは三度ある」と「三度目の正直」ということわざは矛盾しているように見える。 <p>6) 「矛盾」の基になった故事と現代での意味の違いを考えてワークシート②に書く。</p>	<p>ワークシート② 国語辞典</p>	<p>○具体的な故事から、どれくらい抽象化した意味で使われるようになっていくかを理解させる。</p> <p>○「矛盾」という漢字が「矛」と「盾」であること、それらをほめる楚人の言葉がつじつまの合わないことなどを振り返らせる。</p> <div data-bbox="751 748 1078 1032" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《板書例》</p> <p>「矛盾」→説明の言葉だけでなく、言動が一致しないことや一貫性のない取り組みなどについても、幅広くつじつまの合わないことを意味する。</p> </div>	<div data-bbox="1107 210 1458 443" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【言②】 故事成語の辞書的な意味と故事との関係に注意し、語感を磨いている。</p> <p>【ワークシート②】</p> </div> <div data-bbox="1107 461 1458 694" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「矛盾」の故事と「矛盾」の辞書的な意味の違いについて書いている状況を「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。</p> </div> <div data-bbox="1107 712 1458 945" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>「矛盾」の基になった故事のあらすじと、「矛盾」の現代での意味を比べて違うところを書くように促す。</p> </div>
<p>ま と め</p>	<p>6 学習計画表の「自己評価」の欄に本時の自己評価に合った顔マークを書き、「学んだこと(学習のまとめや感想)」を書いて本時の学習を振り返る。</p> <p>7 次時の「目標」と「学習活動」を確かめ、見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表</p>	<p>○目標に応じて学習内容がどうであったか考えて振り返るよう促す。</p> <p>○板書を参考にして学んだことを書かせる。</p> <p>○次時は、自分の生活における矛盾した出来事について、文章や4コマ漫画をかくことを知らせる。</p>	

6-3 3/5時の指導計画

(1) 目 標

「矛盾」の基になった漢文に表現された内容に関心を持ち、故事成語の意味に合う日常生活の出来事と結び付けて考えようとする。

(2) 展 開 ※ 表中のゴシック体で書かれた学習活動は、本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	<p>1 「矛盾」の意味を確認し前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 本時の目標を確かめる。</p>	<p>学習計画表</p> <p>ワークシート②</p>	<p>○前時に確認した「矛盾」の意味を板書する。</p> <p>○ワークシート②でかいた「矛盾」の故事の4コマ漫画を見直させ、本時の活動のイメージをもたせる。</p>	
<p>「矛盾」の基になった故事と自分の生活を結び付けて考えよう</p>				
展 開	<p>3 自分の生活における矛盾した出来事について考える。</p> <p>・ワークシート②と作品モデルIを比較して、故事成語「矛盾」の基になった故事と全く同じ構成や展開でなくてもよいことを確認する。</p> <p>・作品モデルIIを読み、文章と4コマ漫画とどちらか1つでもよいことを確かめると同時に、評価規準を具体的に理解する。</p>	<p>ワークシート③</p> <p>指導者の作品モデルI</p> <p>指導者の作品モデルII</p>	<p>○指導者自身の体験を紹介し、振り返りやすくさせる。</p> <p>◆ワークシート③に指導者自身の体験を書いたものを、電子黒板に投影して説明することで、ワークシート③の使い方や評価規準について具体的に理解させる。</p> <p>○作品モデルIと作品モデルIIを使って起承転結の構成や故事成語の基になった故事との関連について説明する。</p> <p>○実際に体験したことだけでなく、創作してもよいことを伝える。</p> <p>○絵はマルや棒線などの簡単な線でかく絵でよいことを知らせる。</p> <p>○グループで作品を読み合い、一言感想を伝えることを確認する。</p>	<p>◇起承転結について理解するのに時間が掛かっている生徒には、小学校第6学年(光村図書・東京書籍)の時に読んだ五言絶句「春暁」を例にして説明する。</p>

展 開	<p>4 矛盾の意味に合う出来事について起承転結の構成に沿った文章や4コマ漫画をかく。</p> <p>5 グループで作品を読み合い、交流する。 〔手順〕</p> <p>1) 作品を読み、その作品の裏に、一言感想を書き添える。</p> <p>2) 作品についてかかれた出来事の内容や矛盾の意味との関連などについて質問をしたり、改善点について意見を述べたりする。</p>	ワークシート③	<p>○時間に余裕のある生徒には、起承転結の構成に沿った文章と4コマ漫画の両方をかくことを勧める。また、複数の出来事をかくことを望む生徒にはワークシート③を渡す。</p> <p>○交流は、作品にかかれた出来事が、矛盾の意味に合っているかどうかという観点で行うのであって、構成や展開、記述や絵の巧みさなどについて行うのではないことを確認する。</p> <p>○よいところを感想として述べるだけでなく、質問をしたり、意見を述べたりすることが理解を深めるために大切であることを伝え、交流を促す。(1つの作品について、最低1回は、質問をするか意見を述べるかすることを約束事にして交流させる。)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【関①】 故事成語の基になった漢文に表現された内容に関心をもち、故事成語の意味に合う日常生活の出来事と結び付けて考えようとしている。</p> <p>【観察】</p> <p>【ワークシート③】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>故事成語の辞書的な意味に合う出来事を、文章または四コマ漫画のどちらかにかいている状況を「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>当該生徒の日常生活から類推して、当てはまるような体験をいくつか例に挙げて、自分の生活を振り返らせる手掛かりとさせる。また、体験の思い浮かばない生徒については、生徒のよく知っている物語や漫画作品などの出来事を例に示してかくように促す。</p> </div>
ま と め	<p>6 学習計画表の「自己評価」の欄に本時の自己評価に合った顔マークを書き、「学んだこと(学習のまとめや感想)」を書いて本時の学習を振り返る。</p> <p>7 次時の「目標」と「学習活動」を確かめ、見通しをもつ。</p>	学習計画表	<p>○「学んだこと」の欄に、最も印象に残った作品とその理由を書かせる。</p> <p>○次時は自分が選んだ故事成語について、起承転結の構成に沿った文章や4コマ漫画をかくことを確かめる。</p>	

6-4 4/5時の指導計画

(1) 目 標

- ・ 故事成語の基になった漢文を知り，古典には様々な種類の作品があることを理解することができる。
- ・ 故事成語の基になった漢文に表現された内容に関心を持ち，故事成語の意味に合う出来事を自分の生活と結び付けて考えようとする。

(2) 展 開 ※ 表中のゴシック体で書かれた学習活動は，本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 学習計画表で前時までの学習を振り返る。 2 本時の目標を確かめる。	学習計画表 ワークシート③	◆数名の生徒作品を教材提示装置で投影して解説し，故事成語の意味に合う出来事をかくことについて理解を深めさせ，本時の学習に見通しをもたせる。	
	故事成語に合う出来事を考えて，起承転結の構成に沿った文章や4コマ漫画をかこう			
展 開	3 資料集や国語辞典などを用いて，いろいろな故事成語について調べる。 〔手順〕 1) ワークシート④の故事成語について資料集や国語辞典で調べて，故事や基になった漢文などを読む。 2) 文章や4コマ漫画にかく故事成語を決める。	資料集 国語辞典 ワークシート④	○ワークシート④で示した故事成語について，その基になった故事を並行読書によって調べたり，読んだりしたかどうかを確かめる。 ○故事成語の基になった故事のような体験をしたことがないかを考えながら，また，起承転結の構成にあてはめながら読むように促す。 ○自分の生活を想起させるような故事成語から選ばせる。	【言①】 故事成語の基になった漢文を知り，古典には様々な種類の作品があることを理解している。 【観察】 【ワークシート④】 様々な故事成語について，その基になった故事や漢文及び関連の図書を読んでいる状況を「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。 生徒の日常生活から類推して，該当する体験が思い浮かぶような故事成語を選んでその意味や故事を読ませ，古典には様々な種類の作品があることを実感させる。

展 開	<p>4 選んだ故事成語について、起承転結の構成に沿った文章や4コマ漫画をかく。</p> <p>5 かいた作品を読み返し、故事成語の意味と合っているか確かめ、推敲をする。</p>	ワークシート⑤	<p>○起承転結のコマ割りなどが適切かどうか考えながら読むように指示し、分かりやすくさせる。</p> <p>○かき上げた生徒には、他の故事成語についてもかいてみるよう勧める。</p>	<p>【関①】 故事成語の基になった漢文に表現された内容に関心を持ち、故事成語の意味に合う日常生活の出来事と結び付けて考えようとしている。</p> <p>【観察】 【ワークシート⑤】</p> <p>故事成語の基になった故事の内容を理解し、故事成語の意味に合う出来事を文章または、4コマ漫画にかいている状況を「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。</p> <p>学校行事や他教科の学習における経験などから、故事成語にあった場面を具体的に例示し、自分の生活と似ているものについてかかせる。また、生徒のよく知っている物語や漫画などの出来事から故事成語に合うものをかくよう促す。</p>
	ま と め	<p>6 学習計画表の「自己評価」の欄に本時の自己評価に合った顔マークを書き、「学んだこと(学習のまとめや感想)」を書いて本時の学習を振り返る。</p> <p>7 次時の「目標」と「学習活動」を確かめ、見通しをもつ。</p>	学習計画表	<p>○初めて知った故事成語や、印象に残った故事成語について「学んだこと」の欄に記入させる。</p> <p>○次時はグループで読み合い、グループの代表が、全体の場で発表することを確認する。</p>

6-5 5/5時の指導計画

(1) 目標

- ・ 故事成語の辞書的な意味と故事との関係に注意し、語感を磨くことができる。

(2) 展開 ※ 表中のゴシック体で書かれた学習活動は、本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導入	1 学習計画表で前時までの学習を振り返る。	学習計画表	○ワークシート⑤を読み返させ、故事成語の意味と合っているか再確認させる。	
	2 本時の目標を確かめる。			
起承転結の構成に沿った文章や4コマ漫画を読み合っ、いろいろな故事成語を知ろう				
展開	3 グループで作品を読んで評価し合い、様々な故事成語について知り、理解を深める。	ワークシート⑤ 資料集 国語辞典 評価表	○グループでの作品交流を通して、故事成語の基になった故事を知ったり、詳しい意味やニュアンスを知ったりさせて、理解を深めさせるようにする。 ○「◎よくできている、○できている、△あまりできていない」の3段階で評価させる。 ○辞書の説明では、詳しい意味やニュアンスまでは伝わらない場合があることを知らせる。 ○グループの代表者を決める話し合いの中で、故事成語の意味とかかれた出来事のどの部分が	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【言②】 故事成語の辞書的な意味と故事との関係に注意し、語感を磨いている。</p> <p>【ワークシート⑤】 【評価表】【学習計画表】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>故事成語の辞書的な意味と故事から分かる詳しい意味やニュアンスについて書いている状況を「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>辞書的な意味だけでは使い方を間違えそうな故事成語を選び、その作品から分かる詳しい意味と一緒に考え、評価表に書くように促す。</p> </div>
	<p>[手順]</p> <p>1) 作品を読んで、「I 故事成語の意味と合っているか」、「II 故事成語を使えそうな場面を他にも想像できたか」について3段階で評価し、評価表に記入する。</p> <p>2) 国語辞典の意味と、作品から分かる故事成語の詳しい意味やニュアンスを書く。</p> <p>3) 推薦理由を明らかにして、グループの代表者を決める。</p>			

展 開	<p>4 学級で代表者の作品を発表し合い，基になった故事成語を考える。</p> <p>[手順]</p> <p>1) グループの代表者は基にした故事成語は隠して作品だけを発表する。</p> <p>2) 発表を聞いて，思い浮かぶ故事成語を発表する。</p> <p>3) 友達の発表を聞いて初めて知った故事成語や，初めて気付いた詳しい意味について評価表に記入する。</p>		<p>一致しているかを明らかにするよう指示する。</p> <p>◆作品を教材提示装置で投影し，起承転結に沿った文章や4コマ漫画を直接見せながら発表を聞かせる。</p> <p>○作品の発表は，故事成語は隠して行わせ，聞き手が思い浮かぶ故事成語を当てるというクイズ方式で行わせる。</p> <p>○故事成語を思い浮かべる根拠となったところも併せて発表させる。</p> <p>○辞書的な意味だけでは分からない故事成語の詳しい意味やニュアンスが理解できた故事成語について書かせる。</p>	<p>◇クイズへの取り組みが消極的な生徒に対しては，資料集を見合わせながら作品の発表を一緒に聞き，当てはまりそうな故事成語に見当を付けさせながらクイズに取り組ませる。</p>
ま と め	<p>5 学習計画表の「自己評価」の欄に本時の自己評価に合った顔マークを書き，「学んだこと(学習のまとめや感想)」を書いて本時の学習を振り返る。</p> <p>6 単元の学習を振り返り，身に付けた力やその力を活用できそうな場面について考え，学習計画表に記入する。</p>	学習計画表	<p>○初めて知った故事成語や，印象に残った故事成語について「学んだこと」の欄に記入させる。</p> <p>○単元の学習について指導者の評価を伝え，生徒が新しい課題や今後の学習の展望がもてるようにする。</p>	